

オウム事件「終幕」から1週間 米バウンティハンターが解説

▶高橋克也容疑者（時事）には1000万円の懸賞金



◆別人としか思えない菊地容疑者の「昔と今」

オウム真理教元信者高橋克也容疑者（54）の逮捕から22日で1週間。逃亡から17年もかかった逮捕について、様々な問題点が指摘された。

一連の逮捕劇

変なプライド

手配写真の混乱

懸賞金上限撤廃

が

は、昨年大みそか

に

元幹部平田信被

告（47）が出頭、

オウムへの関心が

再び高まること

が契機となつた。

懸賞金が500万

円から1000万

円に引き上げら

れ、元信者菊地直子容疑者（40）の自撃情報も寄せられ、最後は通報で捕まつた。高橋容疑者も潜伏先からの情報が逮捕につながつた。

米国で逃亡犯を追うバ

ンティハンター（賞金稼ぎ）で同国FBI捜査官の荒木秀一氏（48）は

日本で違いをこう語る。

「米国では、ライセンス

所持者はFBIのデータ

ベースにアクセスでき

る。日本では、

逮捕された3人は17年前に公開された手配写真

が

つかつていれば、私も動いていたし、

本中で「にわかハンター」

が血眼になって探してい

た。勤勉な日本人は地道な

調査活動は得意で、情

報も集まるのです」

オウム事件の教訓を未

解決事件に生かせるか。

「私は、この手配写真

を持っていいが、一般

には混乱を与えるとい

う」（小林宏隆）

税金を徴収する側の仰天 ヌルすぎる実態を暴露!!

税務署の生ぬるい実態を暴露した松嶋洋氏

一方、世間を騒がせたオウム最後の逃亡犯の逮捕からちょうど1週間。日本の警察の問題点がいくつも浮き彫りになつた追跡劇も「その道のプロ」が徹底分析した。

今、その税金を徴収する税務署のあきれた実態を暴露した元国税庁調査官がいた。あまりにヒドい裏側とは

税務署も警察もどうなつてゐるの?

一般的のサラリーマンな

仕事です」と言い切る。

しかも、いわゆる「9

5月と9月と12月上旬に集

務内容を詳しく知る人は

少ないのではないか

か。日夜、税金徴収に忙

しく動き回つてゐるのか

と思ひます、どうもそ

うではないらしい。「元国

税調査官がよく税務署

の裏側」（東洋経済新報

社刊）の著者で、元国

税調査官の現税理士

・松嶋洋氏（32）は「樂

年間2か月、家賃1万円寮住まい、おいしい経費

な仕事です」と言い切る。

しかも、いわゆる「9

5月と9月と12月上旬に集

中する。「年末や1月は

忙しいので企業には相手

にされない。同じく2か月

3月は確定申告で忙しい

人が多い。8月はお盆で

にされない。同じく2か月

企業が休み。6月と7月は

年度の切り替えで職員の

異動があつて動けないん

です」。極端に言うと、

およそ半年しか本気で働

かないのだという。

年度の切り替えで職員の

異動があつて動けないん

です」。極端に言うと、

およそ半年しか本気で働